

秋田県農林水産業・農山漁村振興基本計画

あきた農林水産ビジョン



令和8年3月
秋 田 県

3. 林業・木材産業をめぐる動き

(1) 林業

我が国の林業は、森林資源の循環利用等を通じて、国土保全や水源涵養など森林の有する多面的機能の発揮に寄与してきました。

近年、施業の集約化による経営の効率化や、林業従事者の育成が進められた結果、国産材の生産量は増加し、木材自給率も上昇するなど、活力を回復しつつあります。

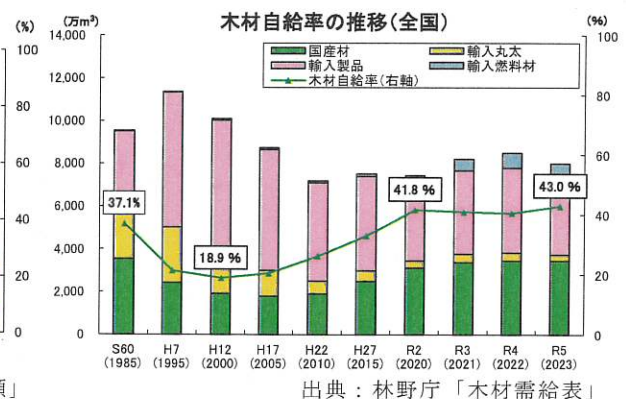
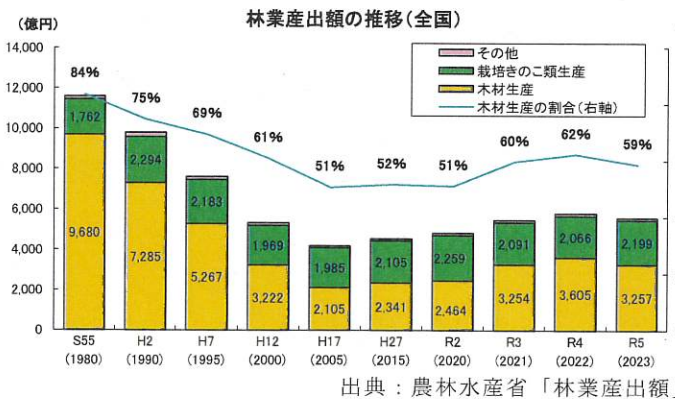
また、林業産出額の約4割を占める特用林産物は、木材と共に中山間地域の経済を支える重要な資源となっています。

(2) 木材産業

近年、我が国の木材需要は回復傾向にあり、合板等への利用が進んだことなどから、国産材の供給量は増加傾向にあります。

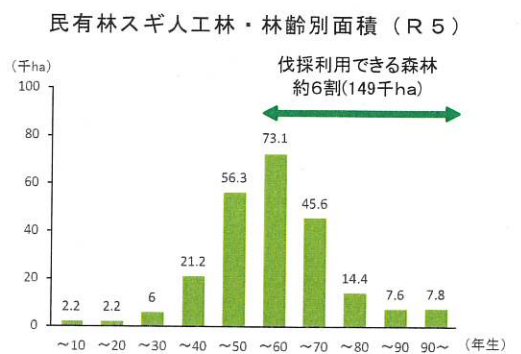
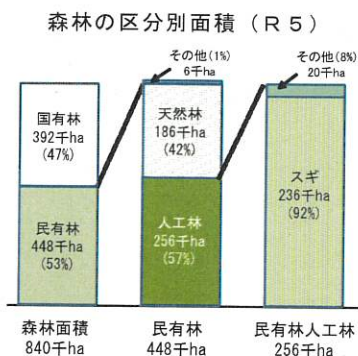
こうした中、地球温暖化や地域経済の活性化に貢献する木材の利用が、住宅に加え非住宅建築やバイオマスエネルギーなど多様な形で進められており、木材産業の競争力強化や国産材活用に向けた製品・技術の開発・普及が推進されています。

第1編 あきた農林水産ビジョンの策定に当たって



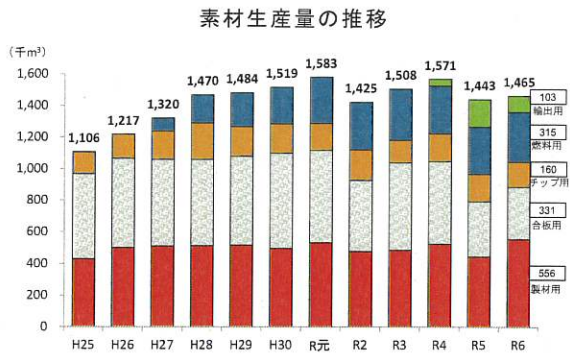
■ 森林の現状

- ・ 県内森林の約5割が民有林で、植栽等により造成された人工林は民有林の約6割です。
- ・ 民有林人工林のうちスギ人工林は約9割を占め、そのうち本格的に伐採利用できる森林は現在約6割となっており、10年後には約9割に増加する見込みです。

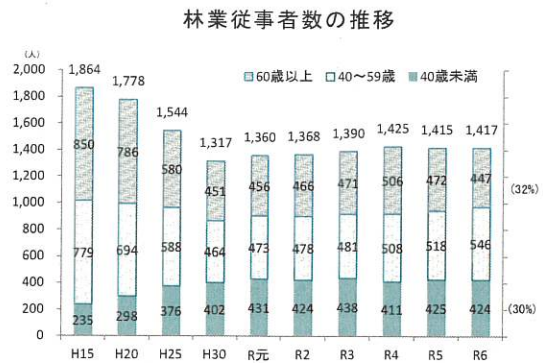


■ 林業の状況

- ・ 素材生産量は、増加傾向にあり、平成28年以降は毎年140万m³以上で推移しています。
- ・ 林業従事者数は減少傾向にあったものの、近年は微増傾向となっています。



出典：林業木材産業課調べ

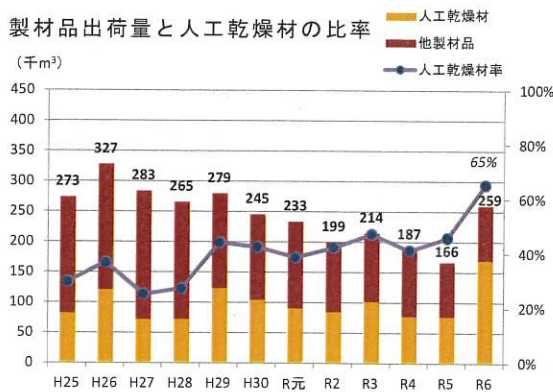


出典：林業木材産業課調べ

第1編 あきた農林水産ビジョンの策定に当たって

■ 木材産業の状況

- ・ 人工乾燥機等の整備により、製材品に占める人工乾燥材の比率は上昇傾向にあります。
- ・ 合板用素材は、外材から国産材への転換が進み、ほぼ全てが国産材となっています。



出典：林業木材産業課調べ



出典：林業木材産業課調べ

第2章

あきた農林水産ビジョンの概要

施策2

森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する

脱炭素社会の実現に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を促進し、林業・木材産業の成長産業化と森林の有する多面的機能の維持・発揮を目指します。

方向性1

林業を支える人材の確保・育成

- 取組① 移住者や女性・若者などを含めた多様な新規就業者を育成します
- 取組② 秋田林業大学校を核に即戦力となる人材を育成します
- 取組③ 女性・若者が働きやすい魅力的な労働環境づくりを推進します
- 取組④ 体験学習や多様な働き方の情報発信を通じて職業理解を促進します

方向性2

脱炭素に貢献する再造林の拡大

- 取組① 造林者と伐採者の連携による効率的な再造林を促進します
- 取組② 植栽密度や下刈り回数の低減など低コスト・省力造林技術の定着を図ります
- 取組③ 成長に優れたスギエリートツリー等の普及拡大を図ります
- 取組④ 森林由来のJ-クレジット制度の周知と認証取得に向けた支援を強化します

方向性3

生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大

- 取組① 効果的な路網整備を推進するとともに、先進的な林業機械やスマート技術等の導入を促進します
- 取組② 市場のニーズに対応した木材の加工・流通体制を強化します
- 取組③ 建築物の木造・木質化と県産材の利用拡大を図ります
- 取組④ 実需者とのマッチングなど県産材の輸出拡大に向けて支援します

方向性4

森林の有する多面的機能の維持・発揮

- 取組① 第50回全国育樹祭を契機に森づくりの気運の醸成を図ります
- 取組② 県民の参加による植樹活動や環境教育活動を推進します
- 取組③ 県民の暮らしを守る保安林等の森林病虫害対策を推進します

《代表指標》 林業産出額 現状(R5) 187億円 → 目標(R11) 240億円

業績指標

方向性1	・新規林業就業者数	現状(R6)	152人	→	目標(R11)	160人
	・新規林業就業者の3年後の定着率	現状(R6)	65%	→	目標(R11)	80%
	・Aターンによる移住就業者数	現状(R6)	17人	→	目標(R11)	20人
	・林業従事者数	現状(R6)	1,417人	→	目標(R11)	1,560人
	・秋田林業大学校の受講者数	現状(R6)	24人	→	目標(R11)	30人
方向性2	・再造林面積	現状(R6)	735ha	→	目標(R11)	790ha
	・植栽密度	現状(R6)	2,300本/ha	→	目標(R11)	2,200本/ha
	・スギエリートツリーの造林面積	現状(R6)	0ha	→	目標(R11)	159ha
	・森林由来のJ-クレジットの販売額	現状(R6)	886百万円	→	目標(R11)	1,350百万円
方向性3	・素材生産量	現状(R6)	1,465千m ³	→	目標(R11)	1,700千m ³
	・県産材出荷量	現状(R6)	622千m ³	→	目標(R11)	792千m ³
	・木材製品の輸出額	現状(R6)	95百万円	→	目標(R11)	155百万円
方向性4	・森づくり活動等への参加者数	現状(R6)	28,190人	→	目標(R11)	35,000人
	・松くい虫被害量	現状(R6)	26,075m ³	→	目標(R11)	7,000m ³

【施策の展開方向】

- 県内外からの担い手の確保・育成
- 単収向上・低コスト化・省力化による生産性の向上
- 海外マーケットへの攻勢
- 地球温暖化など環境変化への対応と脱炭素への貢献
- 持続可能な地域運営体制の構築



- 稼ぐ力の向上
- 脱炭素社会の実現
- コミュニティ機能の強化

▶ 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する

- 林業におけるAターンの強化
 - ・ 林業経営体における魅力ある労働環境づくり
- 脱炭素への貢献
 - ・ 造林者と伐採者の連携による効率的な再生林の促進
 - ・ 成長に優れたスギエリートツリー等の普及拡大
 - ・ 森林由来のJ-クレジット制度の周知と認証取得に向けたサポート強化
- 生産・供給体制の強化
 - ・ スギ生育適地での効果的な路網整備とデジタル技術による路網情報の共有
 - ・ ICT等の先端技術を搭載した先進的な林業機械等の導入促進
- 県産材の利用促進と販路拡大
 - ・ 非住宅分野における県産材利用モデル施設の創出
 - ・ 台湾などへの輸出拡大に向けた実需者と県内製材工場のマッチングの推進

▶ 環境変化に対応した新たな水産業を実現する

- 漁業における人材育成の強化
 - ・ あきた漁業スクールにおける就業体験や実践研修の充実・強化
- 海洋環境の変化への対応
 - ・ 漁港内の静穏域を活用した蓄養殖ビジネスの拡大
 - ・ 魚種の変化に対応した漁法の複合化・転換の促進
- スマート技術の導入による操業等の効率化
 - ・ 生成AIの活用による漁場予測の試行

▶ 活力あふれる明るい農山漁村を実現する

- 地域を支える人材・組織の育成
 - ・ 農村RMOの設立に向けた合意形成から活動実証までに至る一連の取組を支援
- 農山漁村ならではのビジネスの創出
 - ・ 冷涼な気候を生かした夏秋いちご等の生産拡大
 - ・ 食や文化など地域に潜在する資源を活用したオンリーワンビジネスの創出
- 農地保全と鳥獣被害防止対策の強化
 - ・ 農地保全活動組織の連携・統合による体制強化や鳥獣被害対策実施隊の活動強化

施策2 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する

施策のねらい

脱炭素社会の実現に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を促進し、林業・木材産業の成長産業化と森林の有する多面的機能の維持・発揮を目指します。



豊富な森林資源



先進的な林業機械等による作業



県民参加の植樹活動

【代表指標】

指標名	単位	基準年		目標値			
		年	実績値	R8	R9	R10	R11
★ 林業産出額※	億円	R5	187	218	228	233	240

★は秋田県総合計画と共通の指標

※燃料用、輸出用を含む

現状と課題

[ネット・ゼロへの貢献]

我が国の「2050年ネット・ゼロ」の実現に向け、森林による二酸化炭素の吸収や木材による炭素の貯蔵効果に期待が高まる中、豊富な森林資源を有する本県の役割が注目されています。

[人材の確保と生産性の向上]

二酸化炭素吸収源や花粉発生源対策として、主伐や計画的な再生造林等の森林整備がますます求められる中、施業を担う人材の更なる確保と生産性の向上が急務となっています。

[新設住宅着工戸数の減少]

国内における人口減少や住宅価格の高騰を背景に、新設住宅着工戸数が減少しており、県産材の利用促進に加え、新たな販路の確保が求められています。



方向性及び取組レベルの展開方向

方向性1 林業を支える人材の確保・育成

秋田林業大学校を核とした即戦力となる人材の育成を進めるとともに、林業の魅力発信や働きやすい労働環境の整備を通じて、林業就業者の育成・定着を図ります。

【主な取組】

- (1) 移住者や女性・若者などを含めた多様な新規就業者を育成します
 - ・ 無料職業紹介所による情報発信の強化
 - ・ 林業経営体や関係団体と連携したAターン就業の促進
- (2) 秋田林業大学校を核に即戦力となる人材を育成します
 - ・ SNSや広報誌など様々な媒体を活用した林業大学校の情報発信
 - ・ 林業経営体や関係団体と連携したカリキュラムの作成
 - ・ 専門家の協力によるスマート林業技術などの研修の実施
- (3) 女性・若者が働きやすい魅力的な労働環境づくりを推進します
 - ・ 林業経営体が行う魅力ある就業環境づくりの促進
 - ・ 林業労働災害の未然防止に向けた巡回指導の実施
 - ・ 秋田県林業女性会議の提言に基づく林業関係団体の取組促進
- (4) 体験学習や多様な働き方の情報発信を通じて職業理解を促進します
 - ・ 先進的な林業機械等の実演・展示などによる林業の魅力発信
 - ・ 県内の小・中・高校生を対象とした林業に関する体験学習の実施
 - ・ 林業に関する情報サイトの運営や市街地における林業の普及啓発



秋田林業大学校での機械操作実習



秋田県林業女性会議による
職場環境の改善に向けた提案



高校生を対象とした体験学習

【業績指標】

指標名	単位	基準年		目標値			
		年	実績値	R8	R9	R10	R11
★ 新規林業就業者数	人	R6	152	160	160	160	160
★ 新規林業就業者の3年後の定着率	%	R6	65.0	69.0	73.0	77.0	80.0
Aターンによる移住就業者数	人	R6	17	20	20	20	20
★ 林業従事者数	人	R6	1,417	1,500	1,530	1,540	1,560
秋田林業大学校の受講者数	人	R6	24	30	30	30	30

★は秋田県総合計画と共通の指標

方向性2 脱炭素に貢献する再造林の拡大

林業経営体へ造林とその後の保育を任せる造林地集積を促進するとともに、優良苗木の安定供給や低コスト・省力技術の普及拡大を図り、森林の若返りによる二酸化炭素吸収量の確保や森林資源の循環利用を目指します。

【主な取組】

- (1) 造林者と伐採者の連携による効率的な再造林を促進します
 - ・ 造林者と伐採者が連携する造林地集積ネットワークの構築
 - ・ 伐採情報の共有と労務協力等による効率的な施業の推進
 - ・ 森林所有者等に再造林の働きかけを行う「あきた造林マイスター」の育成
 - ・ 再造林を推進する気運の醸成に向けた情報発信
- (2) 植栽密度や下刈り回数の低減など低コスト・省力造林技術の定着を図ります
 - ・ 造林保育における低コスト・省力造林技術の普及啓発と導入促進
 - ・ 低コスト・省力化に資する先進技術を実践する人材の育成
- (3) 成長に優れたスギエリートツリー等の普及拡大を図ります
 - ・ エリートツリー等の安定供給に向けた採種園の整備
 - ・ コンテナ苗の生産拡大に向けた施設整備の促進
 - ・ 展示林の活用によるエリートツリー等の実証・普及
- (4) 森林由来のJ-クレジット制度の周知と認証取得に向けた支援を強化します
 - ・ J-クレジット制度の普及啓発
 - ・ 新たに取り組む森林所有者等へのサポート強化
 - ・ 県有林におけるJ-クレジットの創出・販売



再造林（植栽作業）



ドローンの操作研修



スギエリートツリーのミニチュア採種園（閉鎖型）

【業績指標】

指標名	単位	基準年		目標値			
		年	実績値	R8	R9	R10	R11
★再造林面積	ha	R6	735	760	770	780	790
植栽密度	本/ha	R6	2,300	2,275	2,250	2,225	2,200
★スギエリートツリーの造林面積	ha	R6	0	62	78	79	159
★森林由来のJ-クレジットの販売額	百万円	R6	886	930	1,060	1,140	1,350

★は秋田県総合計画と共通の指標

方向性3 生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大

低コストかつ安定的な木材生産・流通体制を構築するとともに、県内外の住宅・非住宅及び中高層建築物への県産材の利用拡大を推進するほか、マーケット調査を踏まえた輸出体制の整備を図ります。

【主な取組】

- (1) 効果的な路網整備を推進するとともに、先進的な林業機械やスマート技術等の導入を促進します
 - ・スギ生育適地における効果的な林内路網の整備促進
 - ・デジタル技術の活用による路網情報の共有化
 - ・ICT等の先端技術を搭載した先進的な林業機械等の導入促進
 - ・生産現場での実証を通じた木材生産スマート化モデルの確立・普及
- (2) 市場のニーズに対応した木材の加工・流通体制を強化します
 - ・秋田県原木需給会議による関係者間の情報共有
 - ・多様なニーズに対応した高品質な木材製品の生産・供給体制の整備
- (3) 建築物の木造・木質化と県産材の利用拡大を図ります
 - ・SNSの活用や首都圏展示会への出展等による「あきた材」のPR
 - ・県産材利用及び普及を進める県内外の工務店等の拡大
 - ・非住宅分野における県産材の利用拡大に向けたモデル施設の創出
- (4) 実需者とのマッチングなど県産材の輸出拡大に向けて支援します
 - ・販路拡大に向けたプロモーションの実施
 - ・安定品質かつ定量出荷に向けた県内製材工場との情報共有
 - ・台湾などへの輸出拡大に向けた実需者と県内製材工場のマッチングの推進



アタッチメント式下刈り機による作業



秋田スギを利用した木造の保育園舎



台湾の展示会への出展

【業績指標】

指標名	単位	基準年		目標値			
		年	実績値	R8	R9	R10	R11
★ 素材生産量	千m ³	R6	1,465	1,580	1,640	1,660	1,700
★ 県産材出荷量	千m ³	R6	622	699	736	762	792
木材製品の輸出額	百万円	R6	95	110	130	142	155

★は秋田県総合計画と共通の指標

方向性4 森林の有する多面的機能の維持・発揮

森林の持つ多面的機能が十分に発揮されるよう、自治体に加え、ボランティア団体や教育機関などの多様な主体による森林整備等を促進するとともに、森林病虫害対策や環境保全対策による森林の健全化を図ります。

【主な取組】

- (1) 第50回全国育樹祭を契機に森づくりの気運の醸成を図ります
 - ・幅広い年代への開催意義の周知と気運醸成
 - ・次世代を担う子供たち等を対象とした森林体験活動やイベントの実施
 - ・豊富な森林資源を背景とした本県の森林・林業・木材産業の魅力発信
- (2) 県民の参加による植樹活動や環境教育活動を推進します
 - ・新たな森林経営管理制度に基づく市町村が主体となった森林整備の促進
 - ・ボランティア団体や自治会等による森づくり活動の促進
 - ・森林環境教育の指導者養成・確保及び学習活動の促進
- (3) 県民の暮らしを守る保安林等の森林病虫害対策を推進します
 - ・防除対象区域の絞り込みによる重点的な森林病虫害対策の実施
 - ・主要道路周辺の安全確保に向けた枯死木等の伐採促進



全国育樹祭皇族殿下による
お手入れ（宮城県）



森づくり活動



枯死木の伐採

【業績指標】

指標名	単位	基準年		目標値			
		年	実績値	R8	R9	R10	R11
★ 森づくり活動等への参加者数	人	R6	28,190	30,500	32,000	33,500	35,000
松くい虫被害量	m ³	R6	26,075	17,500	14,000	10,500	7,000

★は秋田県総合計画と共通の指標